

(財) 全日本海員福祉センター主催による「日本の海洋画展」開催のご案内
について

このたび標記センターより別紙の通り開催の来報がありましたのでご案内申し上げます。

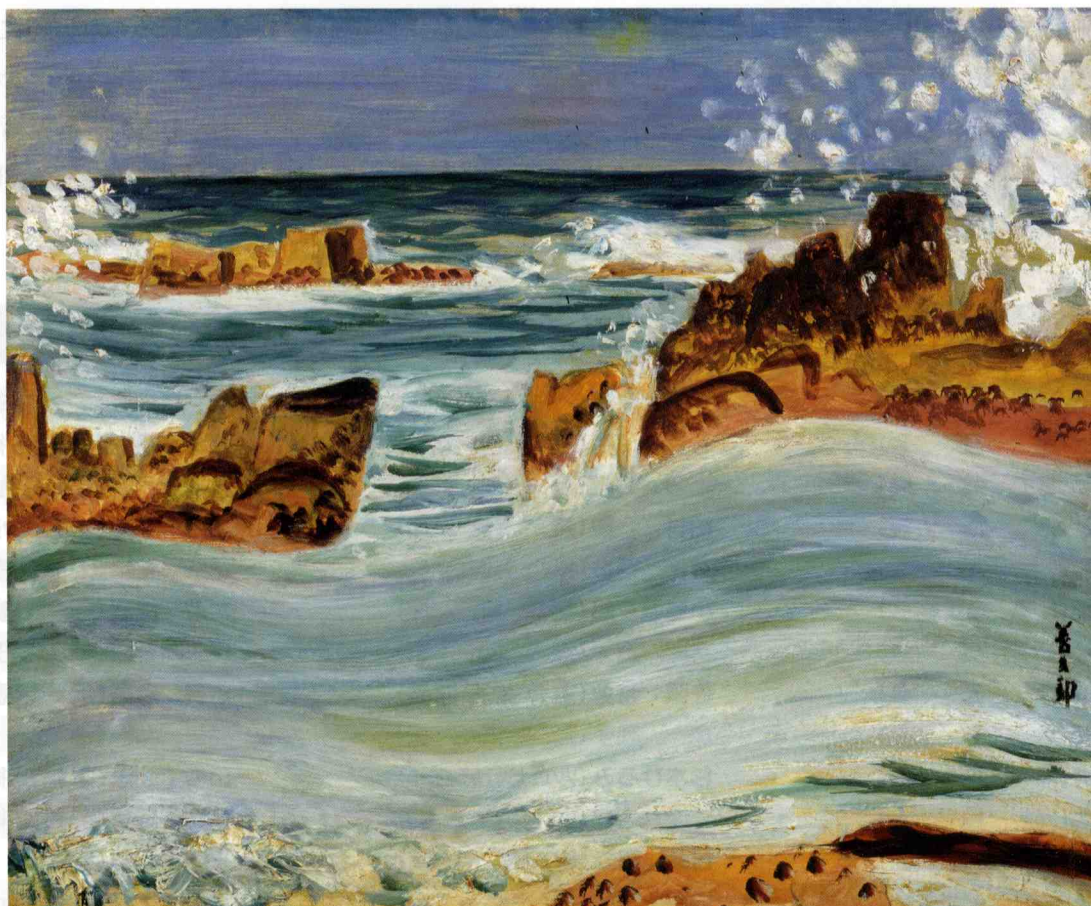
以上

平成20年5月29日
全国海運組合連合会

現代日本画壇の海洋画を一堂に集めて

第23回

日本の海洋画展



児島 善三郎「海」1940年 油彩キャンバス(49.9×60.7)

2008年8月4日(月)～8月15日(金)

AM11:00～PM7:00(初日はPM2:00から 最終日はPM5:00まで)

東京芸術劇場 5階 展示ギャラリー 入場無料

東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL:03-5391-2111(代表)

特別出品:児島 善三郎 **併設展** 海に生きる者の絵画展

主催:財団法人全日本海員福祉センター

東京都港区六本木7-15-26 TEL:03-3475-5390 HP <http://www.jsj01.jp>

後援:朝日新聞社 国土交通省

協賛:厚生労働省・水産庁・(社)日本船主協会・(社)大日本水産会・(財)日本海事広報協会

(順不同) (社)日本船長協会・日本水先人会連合会・(社)全日本船舶職員協会・(社)海洋会

(社)日本船舶機関士協会・(財)日本殉職船員顕彰会・全日本海員組合・漁船同盟連絡協議会

北九州展 2008年9月5日(金)～10月5日(日) 北九州市立美術館分館

北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL:093-562-3215

海と海に生きる人々への共感を込めて

●日本の海洋画展

海から陸へ、フレッシュな風、潮の香り……

海は太古の昔から多くの生命を育み、はかりしれない恵みをもたらしてくれます。やさしく穏やかに、躍動し、ときに猛々しく憧憬に満ちた栄光と辛苦、さまざまな貌をもつ海。

「日本の海洋画展」は、このかけがえのない海と、そこに生きる人々をモチーフにして捉らえ、見つめ直してみたいというのが、開催の動機です。優れた海洋画を通じて一人でも多くの方々に、海に生きる人々や、海を身近なものとして見つめなおし、理解を深めていただきたいと願うものです。

「海に生きる者の絵画展」は、海運人絵画会の作品と幣センターが毎年開催する「海上美術展」から選んだ作品で構成されます。「海上美術展」は、船員と家族をつなぐ文化の広場として、昨年11月に札幌において第33回展を開催しました。

★出品者 特別出品 児島 善三郎(昭和37年没 独立美術協会設立会員)

青江 勉(現代美術家協会)	安達 弘章(一陽会)	石井 公彦(主体美術協会)
石井 伝三(白日会)	石森 寛(日本美術家連盟)	伊勢 正史(主体美術協会)
内山 孝(日展)	遠藤 秀雄(無所属)	大槌 隆(三軌会)
大山 鎮(無所属)	柏村 勲(無所属)	川内 勲(オホーツク美術協会)
工藤 和男(創元会)	窪田 哲香(東光会)	結柴 正作(太平洋美術会)
小穴 竹豊(I. A. C美術会)	小島敬三郎(無所属)	古曾 成樹(一陽会)
小保方 清(光風会)	斉藤 良夫(無所属)	坂中功一郎(二紀会)
佐々木祐誠(東光会)	佐藤 善勇(主体美術協会)	志賀 源吾(示現会)
柴田 麗子(日洋会)	島 映子(無所属)	島田 利一(日展)
島田 稔(無所属)	杉本ひろみ(ソシエテショナルデガール)	田中 淳(主体美術協会)
田中 基之(光風会)	千原 稔(国画会)	手塚 國彦(主体美術協会)
中村 輝行(主体美術協会)	日高 昭二(新槐樹社)	平岡 燁(日展)
堀江半杓子(二紀会)	松井 利昭(無所属)	松尾 美枝(日本美術家連盟)
三引 良一(無所属)	宮原 榮作(日洋会)	宮本 明(日洋会)
宮良 瑛子(日本美術会)	村山きおえ(白日会)	山上 洋典(日本美術院)
横須賀幸正(三軌会)	吉岡 幾哉(中央美術協会)	吉田 民尚(日展)
磯村 敏之(遺作展示)		

★海に生きる者の絵画展 (日本の船員と家族、海運人の絵画展)

網田 昭	雨宮 一夫	石司 存	伊東 安勝
伊藤 幸雄	宇佐美武史	江尻 浩	大野 一夫
岡見 義昭	岡本日出男	加藤 文吾	川辺 涉
河村 泰平	国見 光泉	小松 盛繁	酒井 隆夫
下村 常廣	白井 菊雄	杉本 勝	瀬山 清三
寺崎 瑞恵	中土井 滋	中山 眸	南湖 収二
畑田紘三郎	花塚登喜一	林 典夫	広田 敏
備後 勲	村井 邦夫	松野 平助	山口 則行
山口美智子	山田 敬吾	吉村 幸久	

